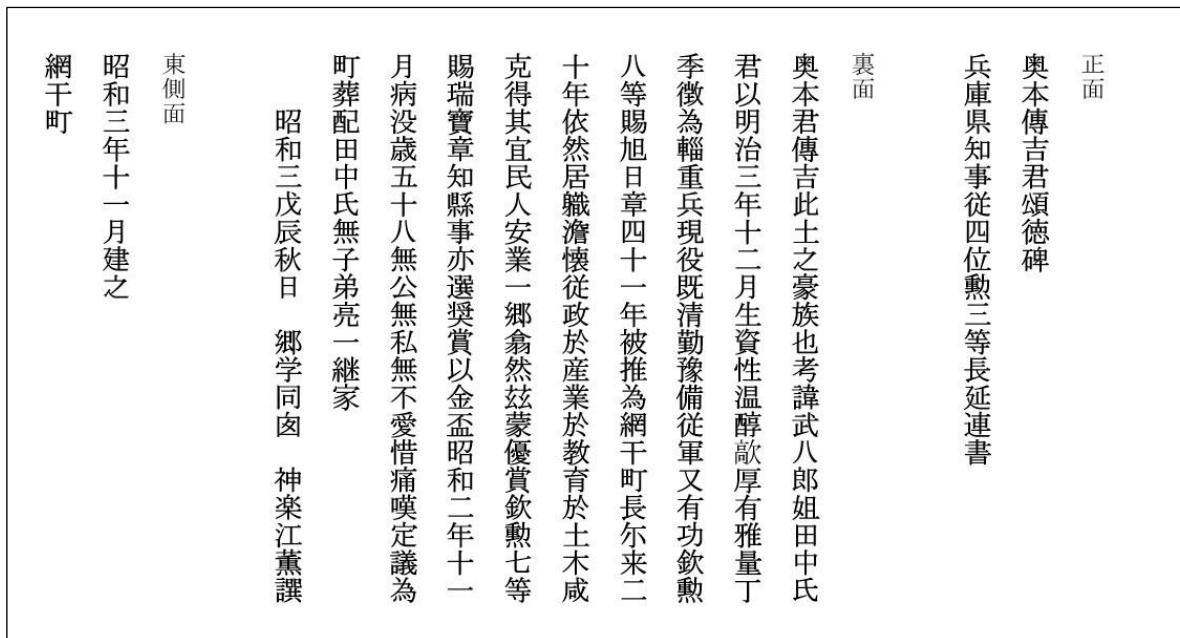


あぼしまち交流館前の三角公園を隔てた興浜の地に、ひときわ大きくそびえる石碑がある。あまりの大きさに、石碑があることすら気が付かず通り過ぎる人もいるほどだ。

この碑は第10代網干町長奥本傳吉の頌徳碑で、昭和3年11月に、網干町によって建立されている。ちなみにこの石碑が立っているのは、旧丸亀藩陣屋内の「家中町」と呼ばれた場所の東北隅にある。石碑の表は兵庫県知事長延連の書。碑文は神楽江薰選。碑文については、不二甲一郎氏の調査によると、以下の通りである。



『網干町史』より

『網干町史』によると、奥本傳吉は、M3年12月新在家の奥本武八郎（新在家戸長や網干町収入役を務めた）の子として生まれている。彼は網干町長に選ばれる以前にも、町会議員として4年。名譽助役としてM34年1月～M36年9月 M40年6月～M41年6月。町長としては、M41年6月～S2年11月に58歳で病没するまでの18年9ヶ月。これは歴代町長の中でも群を抜いた長さである。また、人物紹介欄では「資性寛厚雅量があった。長じて河野通鷗に学び・・・職に在る怛懐、産業、教育、土木、何れも施策宜しきを得・・・」とあり名町長であったと記されている。さらに、永年にわたり婦人会長を務めた水田静枝氏の『網干小学校百周年史』寄稿文によると、「婦人会は大正10年に山内佐太郎先生、奥本傳吉町長他有識者、有志により発足。一步ずつ文化教育の目的に前進した」とあり、女性の社会進出へも深い関心を寄せていたことがわかる。

網干歴史講座会員 御津町 植田 実加子